



【チャレンジ1】

自転車の持つ機動性、利便性を見直し、日常生活のみならず、観光やビジネスなどに利用する取組

自転車は、市街地の車が入りづらい狭い路地や裏道を走ることに適しています。また、交通を妨げることなくちょっと立ち止まったり、少々重い荷物でも比較的楽に運ぶことができます。その機動性、利便性を今一度見直し、自転車を日常生活や観光、ビジネスなどに利用してみませんか。

CASE1 自転車マップづくり

自転車を日常的により活用するための様々な情報が詰まった自転車マップ。安全面に配慮しつつ自転車で乗って地域を走ってみると、思わぬ近道や地元の発見があります。

CASE2 観光地のガイド付きサイクリングツアー

自転車は、車の渋滞が予想される有名な観光地でも、効率的に観光スポットを巡ることができます。オシャレで高性能な自転車をレンタルして、観光ガイド付きのサイクリングツアーに参加すれば、観光地をさらに楽しむことができます。

CASE3 ベロ(自転車)タクシー事業、ワークバイクの制作

ベロタクシーはドイツの首都ベルリンで『人と環境にやさしい交通手段』として開発された自転車タクシーで、日本では、京都で初めて運行を開始し、現在では10数都市で走行しています。また、荷台を様々な用途に活用できるオーダーメイドの自転車の制作も行われています。



【チャレンジ2】

日常的な通勤、休日の趣味やスポーツ、ファッションに取り入れて、エコで健康的なライフスタイルを普及させる取組

自転車は、通勤、通学、買い物など、毎日乗ることでちょっとした運動不足の解消(メタボ対策)に役立ちます。また、休日の趣味、スポーツに気軽に取入れられる健康増進、体力アップのアイテムです。近年では、オシャレでエコなファッションアイテムとしても注目されています。

CASE1 エコ通勤の奨励、自転車ツーキニスト増加に伴う関連ビジネス

通勤に徒歩、自転車を取り入れることで、会社の経費削減と社員の健康増進が図られます。通勤手当での支給額が減るとか、会社の健康保険料の支払いが少なくなるなど金銭面での効果、仕事の能率がアップするなどの効果が期待されます。近年、エコ通勤の奨励と、自転車ツーキニストの増加に伴って、空きビルを利用したロッカー・シャワールーム完備の駐輪場の経営やツーキニスト用の便利グッズ、自転車用ナビ、携帯電話の充電器などの販売など新たな関連ビジネスが創出されています。

CASE2 地域の魅力発信するサイクルイベント、地域を訪れるサイクリストのための施設

地域の魅力を発信することを目的に開催される自転車レース、サイクリングツアーなどのサイクルイベントが各地で行われています。また、地域を訪れるサイクリストのためのショップ、ピットサービス、洗車サービス、屋内シャワーなどを完備した施設も登場しています。

CASE3 自転車をエコでおしゃれなライフスタイルを演出するファッション、文化のアイテムとして発信

自転車をスポーツの一環として乗るだけでなく、自転車もファッションの一部として、かわいくカスタム。また、ファッションも自転車に合う、コーディネートをする女性「自転車ガール」が登場するなど、エコでオシャレな自分を演出するファッション、文化のアイテムとして発信されています。



【チャレンジ3】

自転車は環境にやさしい乗り物であることから、低炭素社会実現の第一歩として、自転車利用に適したまちづくりを推進する取組

自転車は環境に優しい乗り物であるため、自転車利用に適したまちづくりを推進することは、低炭素社会を実現するための第一歩です。また、都市の移動手段の主役を車から自転車へ移すことで、渋滞の解消、大気汚染の緩和が図られ人に優しいまちづくりのきっかけになります。

CASE1 自転車専用道、自転車レーンの整備、自転車利用に適した道路設計

急速に少子高齢化が進むわが国では、今後、子供たちを運ぶベビーカーや、道を歩くお年寄りの安心安全を考えたまち作りが優先課題の1つになります。自転車専用道や自転車レーンの整備、交差点での事故が起きにくい道路設計など自転車を利用しやすい走行環境の整備が進められようとしています。

CASE2 コミュニティサイクル、シェアリング、パーク&ライドの導入施策

コミュニティサイクル、パークアンドライドの導入、電動自転車シェアリングの普及など、低炭素なまちづくりとして、自転車が市街地の新しい公共交通システムの主役となるような施策や取組が行われています。

CASE3 車と自転車、人と自転車との共生社会に向けた新たなルールづくりと安全、マナーの普及啓発

車と自転車の共生社会に向けた新たなルール作りと、安全・マナーの勉強会、啓発普及のイベントなどが取組まれています。



【チャレンジ4】

放置自転車問題などを通して、ゴミ問題や循環を考え、自転車の6R*を推進する取組

近年、海外から壊れやすく、放置につながりやすい低価格の自転車が多くの輸入されているなど、年々、放置自転車の数が増え続けています。放置自転車は、交通の妨げになるばかりか、盗難などの社会風紀を乱すものにもなります。駐輪場の確保と利用率の向上に併せ、放置自転車を通してゴミ問題や循環を考え、低炭素社会の実現に向けた環境意識の向上を図る取組が必要です。

CASE1 放置自転車を購入し、コミュニティサイクルとして再利用
保管期限が過ぎた放置自転車を購入し、市内の商店や企業などの「軒先」におかせてもらい町中でレンタルできる事業が学生NPOにより計画されています。

CASE2 粗大ゴミとして収集された自転車を修理して再利用
粗大ゴミとして収集された自転車は、少し手を加えれば、まだ十分使えるものが数多くあります。リサイクルセンターでは、NPOの協力を得て、自転車の再生を行っています。

CASE3 購入せずに自転車をみんなでシェア、放置自転車を削減
駐輪場不足で街中や駅周辺では大量の放置自転車が発生し問題になっています。そこで、通勤・通学客を対象に駅前において利用時間の異なる複数の利用者間で、サイクルシェアします。利用者は自転車を購入する必要もなく、駐輪場もいらぬ。放置自転車の削減にもつながります。

*6R…①リデュース(抑制) ②リユース(繰り返し使う) ③リサイクル(再資源化) ④レンタル(所有せず借りる) ⑤リペア(修理する) ⑥リバイ(リサイクル品やリユース品を買う)